

# 鄭成功をめぐる近年の国際文化交流：長崎県平戸からの広がり

若松大祐

A Hirado Report of the Latest International Network of Koxinga

WAKAMATSU Daisuke

2021年11月5日受理

## 抄 録

本稿は筆者の臨地調査（フィールドワーク）に基づき、鄭成功をめぐる近年の長崎県平戸市から台湾や中国へ広がる国際文化交流について、初歩的に報告するものである。まずは、臨地調査の概要を示し、続いて調査で得られた知見を述べる。とりわけ2024年に開催される鄭成功生誕400周年行事は、平戸という地域が新たな展開を見せる可能性を秘めている。

キーワード：鄭成功、平戸、国姓爺、台湾、国際文化交流

はじめに

一、調査概要

二、得られた知見

おわりに

付録

はじめに

本稿は筆者の臨地調査（フィールドワーク）に基づき、鄭成功をめぐる近年の長崎県平戸市から広がる国際文化交流について、初歩的に報告するものである。まずは、臨地調査の概要を示し、続いて調査で得られた知見を述べよう。

一、調査概要

このたび2021（令和3）年10月16日（土）から19日（火）までの4日間に、長

崎県平戸市で臨地調査を行った。調査の目的は、最近数十年にわたり長崎平戸で行われている鄭成功関係の行事について関係者や関係組織を訪ね、現代台湾への理解を深めるところにある。

そもそも鄭成功（1624-1662 国姓爺、Koxinga）は漢人の父鄭芝龍（1604-1661、平戸老一官、Nicholas Iquan）と日本人の母田川マツの間に生まれた。海商（武装貿易集団、倭寇）として17世紀の東シナ海で活躍した人物であり、後には近松門左衛門の人形浄瑠璃「国性爺合戦」の主人公のモデルになった。彼の生まれ故郷である平戸では、関係する行事が1962年から始まり、「鄭成功まつり」が毎年開催され、「鄭成功を活かした中野まちづくり委員会」が組織されている。しかも、行事は台湾や中国の関係者や関係組織と共催して実施されている。いわば、長崎平戸から広がる国際文化交流が最近数十年にわたり展開されてきたのである。

そこで、私の関心は今から400年前の鄭成功という人物ではなく、鄭成功をめぐる日本、台湾、中国が織りなす現代の国際文化交流に向く。こうした交流活動の実態への把握を通じ、とりわけ私自身の研究対象である現代台湾についての理解が深まるにちがいない。

なお、鄭成功記念館は川内にある。川内浦は、かつては平戸の副港だった。国際交易港だったから、鄭芝龍も自らの拠点の一つに位置付けたのだろう。今回の臨地調査は主に川内地区の鄭成功記念館およびその周辺の関係史跡をめぐる。たった3泊4日、実際は3日間の調査であり、中国語でいう「走馬観花」だった。

（表1）臨地調査の日程

日時	概要	宿泊
10/16 土 (夜)	公共バスにて、20:00 過ぎに平戸市観光交通ターミナル（平戸棧橋）へ到着する。	平戸：国際観光ホテル旗松亭
10/17 日 (午前)	平戸図書館で関係書籍を閲覧する。	
(午後)	松浦史料博物館を参観する。14:00 に館長と面会する。	
	鄭成功記念館を参観する。16:15 に館長と面会する。	平戸：ホテル蘭風
10/18 月 (午前)	鄭成功記念館を参観する。9:15 に館長と面会する。	
(午後)	13:30 に平戸観光協会を訪問する。次長と面会する。	
	平戸図書館で関係書籍を閲覧する。関係書籍を借用する。	平戸：ホテル蘭風

10/19 火 (午前)	千里ヶ浜鄭成功記念公園で鄭延平王慶誕芳跡を参観する。川内へ向かい、途中で兎誕石を参観する。	
	丸山公園で鄭成功廟を参観する。	
	鄭成功記念館を参観する。	
(午後)	平戸周遊定期観光バスにて、生月島（カクレキリシタンの島）を一周する（13:00-16:30）。	
	菓子司の平戸蔦屋に立ち寄る。	
	17:00 に公共バスにて、平戸市観光交通ターミナル（平戸棧橋）を発ち、松浦鉄道たびら平戸口駅へ向かう。	

(表2) 訪問先

名称	所在地	概要
1. 平戸図書館	〒 859-5121 長崎県平戸市岩の上町 1458 - 2 TEL : 0950-22-4017	鄭成功の関係書籍を閲覧できる。館内書棚の一部に、鄭成功コーナーが設置されている。ほとんどは二次資料になる。
2. 松浦史料博物館	〒 859-5152 長崎県平戸市鏡川町 12 TEL.0950-22-2236	鄭成功の関係史料(一次資料)が参観できる。
3. 鄭成功記念館	〒 859-5132 長崎県平戸市川内町 1114 - 2 TEL 0950-24-2331	鄭成功の生家を復元し、鄭成功という人物について紹介している。媽祖像などの一部の文物をのぞくと、ほとんどは複製である。 <a href="http://www.hirado-net.com/teiseikou/">www.hirado-net.com/teiseikou/</a> 公式サイト
4. 千里ヶ浜鄭成功記念公園	〒 859-5132 長崎県平戸市川内町千里ヶ浜公園	鄭成功の関係史跡（兎誕石、鄭延平王慶誕芳跡など）が参観できる。
5. 鄭成功分霊廟	〒 859-5132 長崎県平戸市川内町丸山公園	鄭成功記念館から少し離れた小高い丘の上にある。
6. 平戸観光協会	〒 859-5114 長崎県平戸市築地町 510 Tel: 0950-23-8600	平戸における鄭成功の関係行事について取り仕切る

7. 平戸市観光課 (文化観光商工部観光課観光振興班)	〒 859-5121 長崎県平戸市岩の上町 1508 - 3 Tel: 0950-22-9140	行政の立場で、平戸における鄭成功の関係行事に関わる。
8. 平戸市文化交流課 (文化観光商工部文化交流課交流推進班)	〒 859-5121 長崎県平戸市岩の上町 1508 - 3 Tel: 0950-22-9143	歴史上の人物としての鄭成功に関わる。したがって、最近の鄭成功関係行事にはほとんど関与しない。

\* 7および8は、このたび訪問していない。

## 二、得られた知見

このたびの臨地調査は「走馬観花」、すなわち走る馬に乗りながら花を見るというものである。つまり、花をしっかりと見ることができるはずもないのである。したがって、最近の平戸での鄭成功をめぐる関連行事につき、ほんのわずかししか触れていない。こうした前提に立ち、得られた知見を備忘録として示そう。

### (1) 関係資料

鄭成功関係の資料は、平戸では鄭成功記念館、松浦史料博物館、平戸図書館にそれぞれ保管されている。中でも、鄭成功をめぐる近年の国際文化交流に関する資料は、鄭成功記念館、平戸図書館が所有している。確かに地元ならではの資料が散見する。しかし、関係資料を網羅しての保管ではなく、数量も多くない。関係組織のたび重なる改編や引っ越しを経て、事務書類はいつの間にか消え、包括的に保管されていないという。

1962年(昭和37)に台湾から鄭氏廟の砂が平戸に届き、それを基に川内丸山に鄭成功廟が建ち、いつからか毎年7月14日(鄭成功の誕生日)に鄭成功まつりが開催されるようになった。歴年のまつりの様子を今に伝える資料はほとんどない。平戸図書館に2、3年分のパンフレットがある。かつては川内を管轄する中野地区に中野観光協会があったようで、その中野観光協会が作成した冊子が数冊あったり、記念行事の次第が数枚ある。

平戸図書館には、長崎鄭成功と同時代史研究会(編)『鄭成功と同時代史研究：鄭成功生誕370年記念：目録・解説・展望』(長崎：編者、1994年)が所蔵されており、これを通じて1994年時点での日本や中国での研究成果が網羅的に把握できる。ただし、この書籍は日本全国の大学図書館にも所蔵されている。さらに1994年から現在までの約25年間には、新たな研究成果が出ているはずである。中でも、中国での研究活動が目覚ましく、雑誌『鄭成功研究』が2013年6月に創刊され、毎年3-4号を刊行して、2021年3月現在、30号まで刊行している。(公式サイト：<http://www.>

zcgw.org/) (→本稿付録 2)

それから、平戸図書館は雑誌『平戸史談』創刊号 - 第 17 号 + (平戸：平戸史談会、1972- 現在。ISSN: 0911-4661)を所蔵している。鄭成功という歴史上の人物に関して、有益な論文や記事が載る。例えば、鄭延平王慶誕芳跡の訳文 (→本稿付録 1 に原文) や鄭成功年表が『平戸史談』15 号に載る。さらに、岡山芳治「台南市における鄭成功関係史跡」『平戸史談』17 号 (平戸：平戸史談会、2010 年、pp.44-56) もある。とはいえ、1980 年代末までは年刊であったものの、第 15 号あたりから約 10 年に一度の刊行となってしまっている。

## (2) 地域の思い

鄭成功に対する平戸の人々の思いがあり、それは地元ならではのものである。鄭成功にまつわる史跡、例えば児誕石 (田川マツが鄭成功を生んだといわれる場所)、鄭成功の母親、鄭成功の生家、お手植えの樹など、実のところ真偽混在である。さらには、鄭成功が台湾で建国の父だとみなされているという話題が一部に定着している。アジアの英雄だと呼ぶ人のいると同時に、鄭成功をそもそもよく知らないという地元の人々も多いようである。確かに鄭成功は 7 歳までしか平戸にいなかった。

## (3) 2024 年のビッグ・イベント

2024 年は鄭成功の生誕 400 周年に当たる。現在の平戸には、これを機に台湾や中国との国際文化交流を従来よりも大きく展開しようという動きがある。2020 年春以来、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、観光の盛んだった平戸は大きな打撃を受けている。コロナ禍の収束を見据え、これまでの惨状を打開する行事として生誕 400 年記念行事の実施が計画されている。

これまでも台湾とは定期的な交流があり、2010 年ごろから台南での 4 月 29 日 (鄭成功によるオランダ駆逐の日) の鄭成功文化節 (2002 年開始) に、平戸での 7 月 14 日 (鄭成功の誕生日) の鄭成功まつり (1962 年開始) に、日台の人々が互いに参加している。加えて、近年は中国の南安市や廈門市からも関係者が平戸を訪れ始めた。

## おわりに

本稿では筆者の臨地調査 (フィールドワーク) に基づき、近年の長崎平戸から台湾や中国へ広がる国際文化交流について、初歩的に報告してきた。2024 年に開催される鄭成功生誕 400 周年行事は、平戸という地域が新たな展開を見せる可能性を秘めており、大変興味深い。

## 付録

### [付録 1]

鄭延平王慶誕芳跡の原文（漢文）が、意外とインターネット上で見つかりにくい。確かに『鄭成功』〔修訂版〕という冊子には原文が掲載されているものの、そもそもこの冊子自体が発行部数も少なく、今や入手困難である<sup>1</sup>。（筆者は平戸図書館で閲覧した。）

そこで、ここでは雑誌『臺南文化』に基づき原文を掲載する<sup>2</sup>。台南文史研究資料庫（データベース）には、該当箇所の画像データとともにテキスト（全文）が掲載されており、非常に便利である<sup>3</sup>。本稿はこのテキストをそのまま転載した。

また、鄭延平王慶誕芳跡の現代語訳が、『平戸史談』15号に載る<sup>4</sup>。ただし、この現代語訳には書き下しの文体が多方面に残っており、漢文の知識がないと読みづらく、内容を理解しにくい。

ちなみに、「鄭延平王慶誕芳蹤」は、松浦家第35代熙（ひろむ、観中）が鄭成功の偉業を讃えるために、そもそもは儒者朝川善庵に命じて「鄭將軍成功伝」（約5000字）を作成した。しかし、これを刻す石がなく、字数を削減せざるを得ない。朝川善庵が没したため、葉山鋸軒に命じて約1500字に縮小し、1582年（嘉永5）に石碑を作ったという。

### （原文）

#### 鄭延平王慶誕芳蹤

##### 肥前國平戸嶋千里演鄭氏遺蹟碑記并銘

明延平郡王鄭將軍成功初名森字大木小字福松其父芝龍福建南安人以慶長王子來 本邦幕府召見問以外國事命館長崎遂徙吾平戸河内浦娶土人田川氏女屢訪藩士家學雙刀技既而田川氏娠一日出遊千里濱拾文具俄將分娩不暇還家乃就濱內巨石以誕是為成功寔寬永元年七月也土人今猶名其石曰兒誕石田川氏復生一男芝龍留妻及兒屢往來外國稱平戸老一官成功年七歲芝龍請使妻兒渡海 幕府聽之母以弟猶幼不肯俱往成功數致書迎之乃詣長崎渡海弟冒田川氏稱七左衛門留住長崎芝龍入海寇顏思齊黨顏恐而其黨歸芝龍遂收臺灣仕明積軍功封平國公成功稍長風儀秀整個儻有大志讀書亦穎敏不治章句明主隆武一見偉之賜姓朱改今名拜御營中軍都督於是人或稱國姓爺不名母亦尋封國夫人在泉州城為清兵所圍城陷軍民皆潰田川氏歎曰事既至此何面目復見人耶登城樓自剄投水死清兵曰婦女尚爾倭人之勇可佐芝龍保安平與清將竊通信納降成功泣諫不聽遂降先是黃徵明齋隆武及芝龍書幣詣長崎乞援兵 起義兵時雖列爵未嘗豫兵詣孔廟焚儒服拜揖而去糾眾得數

<sup>1</sup> 「鄭延平王慶誕芳蹤」、平戸市観光商工課中野観光協会（編）『鄭成功』〔修訂版〕（平戸：編者、1993年）、pp.12-15。

<sup>2</sup> 「鄭延平王慶誕芳蹤」、『臺南文化』〔季刊〕4巻4期（台南：台南市文獻委員会、1955年6月30日）、p.74。

<sup>3</sup> 「臺南文史研究資料庫」

（<https://tainanstudy.nmth.gov.tw/article/detail/306/read?highlightQuery=>）

<sup>4</sup> 「鄭延平王慶誕芳蹤碑」訳文、『平戸史談』15号（平戸：平戸史談会、1995）、pp.60-63。鄭成功の年表が pp.63-68 に所収。

千人稱忠孝伯招討大將軍聞永曆印位改元奉朔據南澳鄭鴻逵據白沙鄭彩據廈門鄭聯據梧州互相犄角攻略沿海郡縣陷同安進侵泉州又襲奪彩軍始據廈門速陷漳浦詔安南靖平和海澄長泰進圍漳州凡六閱月城中食盡人相食死者枕籍七十餘萬人援至解圍而去越三年復攻漳州請將劉國軒降獻城於是成功就廈門立府改名思明州分所部為七十二鎮設六官分理所務擇賢任之便宜封拜其所施為鼓動一世永曆遣使就拜成功延平郡王命圖恢復吾萬治元年成功奉勅欲取金陵定南都乃大舉北上眾號八十萬陷浙江諸州縣二年七月攻陷鎮江登峴山大饗士卒令全斌黃昭等守鎮江屬邑皆下直欲進取金陵甘輝曰瓜鎮為南北咽喉但坐鎮此斷瓜州則山東之師不下據北固則兩浙之路不通南都不勞而定成功不聽竟薄金陵而敗走甘輝死之成功乘流出海還廈門三年五月滿漢大兵分道來侵成功自勒所部扼海門北人不諳水性暈注失列成功乃橫擊之北兵棄船登奎嶼又從□戰北將達素僅以身免還福州自殺竟成功之世北兵不敢來窺成功以廈門單弱亟思拓地先是因中國騷劇紅毛酋竊占據臺灣成功率兵攻之遂招降其酋以復臺灣以赤嵌城為東寧府居之永曆蒙塵聲問不通成功歎曰□海幅員上下數萬里盡棄之英雄無用武之地然息兵休農以俟時未晚也於是制法律創學宮計丁庸養老幼臺人大集吾寬文二年請改元康熙使吳三桂攻永曆於緬緬酋內叛永曆殂於三桂之手明亡訃至成功憤惋得病而卒年三十九子經嗣奉明正朔北兵屢梟侵輒擊却之又出兵攻略閩廣諸州經或作錦病而歿於東寧年三十二子克塽嗣幼弱政出多門清人偵知擊滅臺灣克塽降年十四至京授漢軍公勅令歸葬父祖於南安克塽死爵除矣夫甘輝鎮江之策則明祚鄭氏之盛衰所由而判也成功志急恢復銳進取敗地蹙軍孤是為英雄終古之遺憾初其圖大舉也修書乞我援兵迎朱之瑜 幕府不報瑜先事至廈門則部下將吏寄居縉紳率襲明末幣風佻達自嘉屏斥禮義以為古氣骨董瑜知大事難成云雖然天假以數年能使成功修東寧之業其成敗豈可測焉乎嗚呼天之厭朱德久矣故齎恨而卒痛哉吾 乾齋老公曰成功以一時遭遇自唱大義以恢復為己任其正氣耿耿與天壤俱存而母亦貞烈寔不愧為 日東之產矣是或胚胎於吾封內之素教爾歟何其迹之奇也明清闕記稱成功學二分法於平戶藩士蓋芝龍□崎居我特睽睽于此伎也一旦失即雖為世所貶其初膽略智慧過絕等倫時人或擬諸戚繼光寡人語屋私愛則鄭氏父子俱我池中蚊龍也遺詒古蹟今而不誌竟將湮晦須就千里濱以勒碑誌即命臣高行以其文固辭不允是以就和漢記鄭氏之終始者摘叙其事實雜以吾蕃所傳此則 老公之所以追表古蹟而風勵人心也 老公手書篆額又親係銘曰天厭朱德二帝殂囚縉紳佻達苟生忘羞一旅中興誰述前猷惟我鄭兒涉海報仇臺廈精銳資我劔矛忠孝義勇巨觀厥儔浩然正氣孕此 神州 喜永五年壬子冬十有二月中澣平戶親衛隊長領社曹葉山高行謹撰多賀嘉彰敬書

(補足)

上記の「鄭延平王慶誕芳蹤」(雑誌『臺南文化』版)の原文には、3ヶ所の判読不能な部分があり、『臺南文化』では□の記号を付している。『鄭成功』〔修訂版〕では、順に「鑿」、「沿」、「去」と作る。とはいえ、同じ原文でも『臺南文化』と『鄭成功』〔修訂版〕とで、他にも異なる漢字を使う場所が散見する。本稿では石碑や諸本のテキストを校勘できていない。

[付録 2]

雑誌『鄭成功研究』は全文が鄭成功研究会の公式サイト (<http://www.zcgw.org/bhgk.asp?31>) で閲覧可能である。しかし、それは 11 号 (2016 年 1 月) からであり、創刊号 (2013 年 6 月) から 10 号まではインターネット上では閲覧できず、紙媒体を閲覧するしかない。日本の大学図書館や公共図書館では、雑誌『鄭成功研究』はまず入手できないだろう。このたびの臨地調査では、鄭成功記念館において『鄭成功研究』創刊号 (2013 年 6 月) を閲覧できた。ここでは、創刊号に収録された習近平の文章を転載して訳出する<sup>5</sup>。というのも、この文章で主張されていることが、今なお中国における鄭成功研究の基本的な態度になっている (と思う) からである。

(原文)

郑成功不愧是我国历史上一位杰出的民族英雄。他的历史功绩在于以大无畏的英雄气概，克服种种困难，把荷兰殖民者从台湾赶走，使台湾摆脱了外来侵略者的统治，阻止了西方外来势力对中国的侵略，维护了中国领土的完整，在中国历史上写下了光辉的一页，永远值得后人纪念。

习近平

(摘自《在福建省暨泉州市各界纪念郑成功收复台湾 335 周年大会上的讲话》，  
1997 年 7 月 15 日)

(日本語訳)

鄭成功は、我国の歴史上で傑出した民族英雄の一人にふさわしい。彼の歴史的な功績のありかを言うなら、何ものにも恐れぬ英雄的気概を以て様々な困難を克服し、オランダからの植民者を台湾より追い出して、台湾を外來の侵略者による統治から脱却せしめ、中国に対する西洋の外來勢力からの侵略を阻止し、中国の領土の統一を護ったのである。中国の歴史上に光り輝く一頁を記したのであり、後世で永く記念するに値する。

習近平

(「福建省および泉州市の各界が鄭成功による台湾奪還を記念する 335 周年大会における講話」1997 年 7 月 15 日より抜粋)

---

<sup>5</sup> 「(無題)」、『鄭成功研究』1 期 (泉州：泉州鄭成功研究会、2013 年 6 月)、p.1。